



一般財団法人五常
2025年度
活動報告書

ラダックにある修道院から / 慎 泰俊

誰もが自分の未来を決めることができる世界

目次

創業者と代表からのメッセージ	1
財団について	3
活動の主な進捗	3
ラダックでの支援について	7
女性向け職業訓練プログラムについて	11
子どもたちへの冬季授業について	18
支援者とのコミュニケーション	28
私たちチームについて	33
寄付のお願い	37
計算書類	38
組織体制	41

創業者と代表からのメッセージ

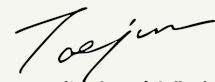
五常財団のステークホルダーの皆様

皆様の支援のお陰で、財団は活動を開始して 4年目に入ることができました。本当に有難うございます。五常・アンド・カンパニーの上場が遅れているため、財団の活動は大規模なものにはなっていませんが、むしろそのお陰で、すべての優れた組織が持っている予算制約下におけるコスト意識が身についていると思います。

新しいプロジェクトとして、私たちはインドのラダックでフィナンシャル・ダイアリープロジェクトを実施しました。その結果として得られた大きな学びは、ヒマラヤ山脈に位置するラダックにおいて、都市部はさておき、農村部ではそもそも貨幣経済がまだ完全に浸透しておらず、家計簿をつけても人々の経済実態が分からないということです。

一方で、現地調査を通じて感じたのは、非貨幣経済にあった農村部が貨幣経済に組み込まれる中で人々が窮乏化する厳しい現実と、冬に閉ざされた村での学業継続の難しさでした。そこで、次に私たちが取り組んだのは、冬期における子どもたちの学業支援でした。このプロジェクトを継続することで、どのような変化が起きるのかを見ていきたいと考えています。

また、活動の勢いをつけるために、私たちはプロボノメンバーを多く募りました。結果として、20人以上のメンバーが活動に参加するようになり、熱量も再び高まっています。新しいチームとともに、もっとよい成果を届けていきたいと考えています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



五常財団創業者
愼泰俊

五常財団のステークホルダーの皆様

2025年の一年間、温かいご支援とご声援をいただいたことに、心より感謝申し上げます。

2025年の大きなチャレンジは、新しいチーム体制化で行ったクラウドファンディングでした。インドのラダックで活動するジュレー・ラダックと共に、子どもたちへの冬季授業と女性たちへの手しごと支援を届けるべく皆様にご支援をお願いしたところ62名の方々から目標を上回る約47万円のご寄付をいただきました。財団の使命にこれほど多くの方が共感し、行動して下さったことを深く嬉しく思います。あらためて、御礼申し上げます。

この支援をもとに、11月から1月にかけてシンゲラ峠周辺の山間0村に教師を派遣し、冬季授業を実施しました。また、女性たちが冬の間も家の中で収入を得られるよう、手工芸スキルの習得を支援しています。活動を丁寧に観察し、皆様にご報告したいと考えています。

組織面では、40名のプロボノメンバーが活動に参加してくれるようになりました。多様な経験と視座を持つ仲間が加わったことで、財団の推進力は着実に増しています。私が微力ながら代表理事として目指しているのは、本業の傍ら関わっている一人ひとりが「ここにいて良かった」と感じられる組織です。そうした土台の上に、中長期的な活動の質と継続性が生まれると信じています。

財団はまだ若い組織です。だからこそ、いま基盤をしっかりと作ることに大きな意味があります。チームの一体感を育みながら、財団の使命に誠実に向き合っています。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

代表理事
高橋 孝郎

財団について

ビジョン

誰もが自分の未来を決めることができる世界

ミッション

一般的な営利企業からは十分なサービスを受けない
人々の生活を向上させる革新的なソリューションへの
資金提供と研究の実施

組織名	一般財団法人五常
設立	2022年2月
代表理事	高橋 孝郎
所在地	東京都渋谷区
活動内容	金融包摂 / ジェンダー平等 / 子供の貧困削減 / 変革のためのデザインに 関する社会課題解決支援



活動の主な進捗

2025年度(2025年1月～12月)の主な活動

- 2025年1月 ポッドキャスト「What's next? by Gojo Foundation」の配信を開始しました。
- 2025年6月 クラウドファンディングを開始しました。
- 2025年6月 ウェビナー「『誰もが自分の未来を決めることができる世界』のつくりかた」を開催しました。
- 2025年7月 ウェビナー「『教育』の未来を考える一途上国支援のリアルと組織や仲間のつくり方」を開催しました。
- 2025年7月 クラウドファンディングを目標を上回る金額で達成しました。
- 2025年8月 ラダックにて「女性向け職業訓練プロジェクト」を開始しました。
- 2025年10月 ウェビナー「社会を変える”仕組み”をどうつくるかー営利と非営利の両輪から」を開催しました。
- 2025年11月 ラダックにて「子どもたちへの冬季授業プロジェクト」を開始しました。

ラダックでの支援について

ラダックへの想い

私たちがラダックで活動する理由の一つは、支援が届きにくい地域だからです。ラダックは、インド北部のヒマラヤ山脈西部に位置する高地地域で、冬は雪に閉ざされる厳しい自然環境にあります。

人口が少なく、地理的にも隔絶されたこの地域では、多くの支援団体が十分に活動できていない現状があります。そうした場所にこそ、取り残された課題があると考えています。

近代化の中で、ラダックの人々が大切にしてきた持続可能な暮らしや精神文化は失われつつあります。その価値を尊重しながら、子どもたちがより良い教育を受け、女性が自立できる環境を整えることは、地域だけでなく社会全体にとっても意義のある取り組みだと私たちは信じています。

五常財団は規模の大小ではなく、本当に必要とされている場所で、意義を信じられる事業に取り組んでいきたいと考えています。遠隔地での挑戦は決して容易ではありませんが、現地の人々とともに学びながら、小さくても確かな変化を積み重ねていきます。



2つのプロジェクト実施概要

五常財団は、Ladakh地域における社会課題の解決に向けた取組みとして、以下の2つのプロジェクトを特定非営利活動法人ジュレー・ラダックの協力を得て実施しています。プロジェクトの実施中、実行メンバー複数名がサイト移動中に車両事故に遭い、入院するという想定外の事象が発生しました。幸いメンバーはすでに回復しており、当初想定していた取組時期より1～2か月程度の遅れが生じているものの、現時点ではプロジェクト完遂に大きな影響はありません。

	① 女性向け職業訓練プロジェクト	② 子どもたちへの冬季授業プロジェクト
存在する課題	農作業が行うことの出来ない厳冬期は、服飾品制作を行い生計を立てるが、デザイン性・品質にばらつきがあり、期待する収入に達していない。	交通インフラが遮断される厳冬期は、遠方に住む子供たちは中心地の学校に通学出来ず、十分な教育機会が提供されない。
課題に対するアプローチ	3つの集落で5～7日間のデザイン・制作講座を開講。外部専門家らによる最新のデザイン、品質向上のポイントをレクチャー。	10か所の集落に教員を派遣し、小規模クラスを開講し学習支援を提供。
最終的なゴール	伝統技術の高度化を通じ、冬期の収入源の確立することで、持続可能な経済的自立を目指す。	冬期の学習空白を解消し、都市部との教育格差を是正することで、進学・就業機会の拡大を図る。
成果の確認方法	製品のBefore/Afterで品質を比較し、スキル向上を確認。売上個数/金額の昨年対比増減を確認。	プログラム開始前と後のテストスコアを比較する。
実施時期	2025年8月～2025年11月 (一部/Kharnakling地区は上記事故により4月実施予定)	2025年11月～2026年4月(2026年1月時点見込)

これまでの成果

これまでの成果をまとめました。2つのプロジェクトは現在も進行中であり、プロジェクト終了後に最終報告書を取りまとめてご報告する予定です。

● 女性向け職業訓練プロジェクト

- 2つの村で合計約60人の女性がプログラムに参加しました。2026年4月までにさらに1つの村で実施予定です。
- プログラム参加者が製作した製品について、2つのバイヤーから高い品質向上評価を受けました。

● 子どもたちへの冬季授業プロジェクト

- 10つの集落で14名の教員を通じて126名の生徒に冬季授業を届けることができました。
- 冬季授業の実施前後で実施したテストの比較では、低学年で9点、中学年で13点、高学年で6点の向上が見られ、学力の改善が示されています。

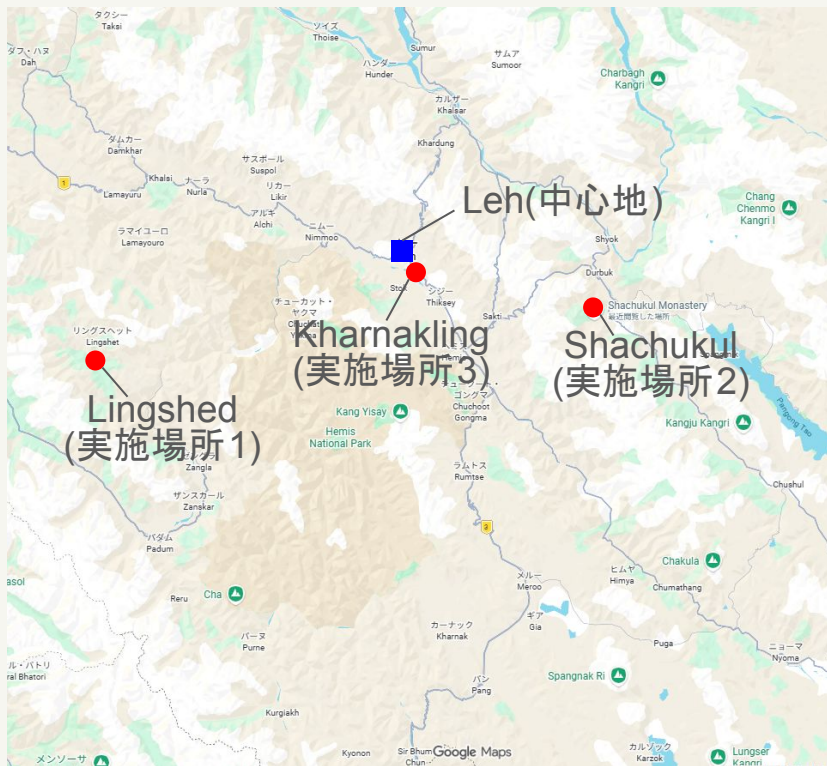


女性向け職業訓練プロジェクトについて



① 女性向け職業訓練プロジェクト(1/5)

街の中心地である Leh から車で約 15 分～5 時間の距離にある Lingshed、Shachukul、Kharnakling の 3 か所にてデザイン制作講座を開講しました。参加者は 20 代～70 代と幅広く、多くは開催場所の周辺集落に住む 40 代～50 代の女性でした。



実施場所 1	実施場所 2	実施場所 3
Lingshed	Shachukul	Kharnakling
Leh から車で約 5 時間	Leh から車で約 3 時間	Leh から車で約 15 分
実施済み	実施済み	2026/4月に実施予定

開催内容:

各箇所において約 2 名の講師によるデザイン・編み方の講座を実施。各箇所平均約 30 名の参加者が集まりました。

各地域では約 1 週間に亘り、約 4~5 時間 (10:00~15:00 含 昼食時間) の講座を開講しました。また、全員で昼食づくりを行うなど、終始和気あいあいとした雰囲気で行われました。

募集方法:

各地域で事前告知を行い参加者を募集したほか、当日農作業などが無く実施地域周辺に居合わせた方も多く参加しました。

① 女性向け職業訓練プロジェクト (2/5)

講座受講前後における制作製品を比較すると、製品の品質が改善し、参加者のスキルとデザイン性に向上が見られました。

Before / **After**
編み方が緩い部分から穴が空きやすい



Before / **After**
編む力が均一でないためにデザインが不揃い



① 女性向け職業訓練プロジェクト (3/5)

参加者が制作した製品は、主に Ladakh地域の路面店・土産店で販売、冬季は地元住民、夏季は観光客向けに販売されます。また、地元での販売に加え、日本国内においても NPO法人ジュレー・ラダックによるポップアップ出店が行われており、直接その品質とデザインを確かめていただけます。※最新のイベント情報はジュレー・ラダックのHPをご覧ください(<https://www.julavladakh.org/>)

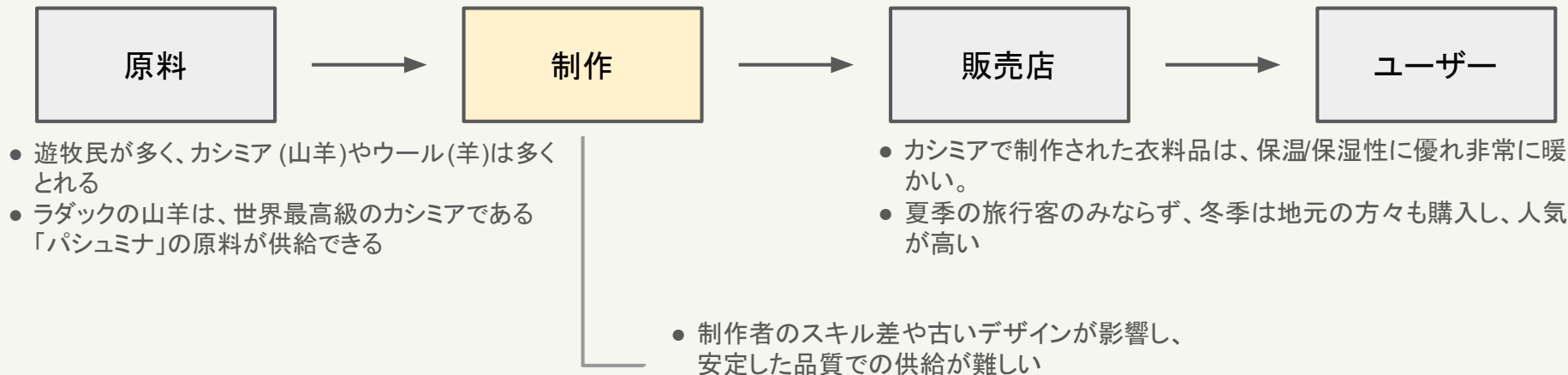
ポップアップ店舗の様子



① 女性向け職業訓練プロジェクト(4/5)

2026年4月に残るKharnakling 地域においてプログラム開講を予定しています。また、参加者への満足度調査及びバイヤー（販売店など）へのヒアリングを行い、プロジェクトの成果検証を行う予定です。

製品のサプライチェーンにおける課題(仮説)



① 女性向け職業訓練プロジェクト (5/5)



写真提供 :Julay Ladakh

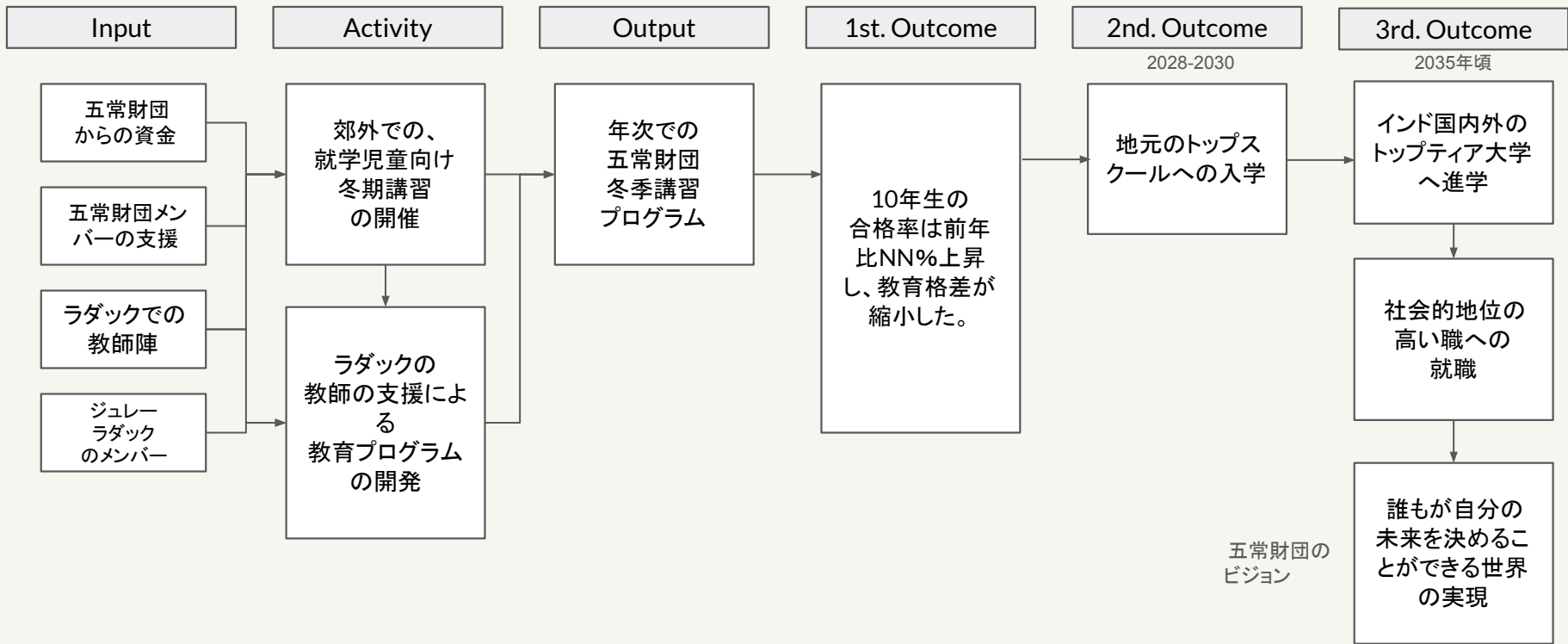
子どもたちへの冬季授業プロジェクトについて

冬季授業に参加した子供たちと先生



② 子どもたちへの冬季授業プロジェクト(1/8)

プロジェクト予算の趨勢を占める冬季授業について、プログラムが採択される以前に、財団内でもロジックモデルを構築し、財団の掲げるビジョンと整合しているか/できるかを検証しました。

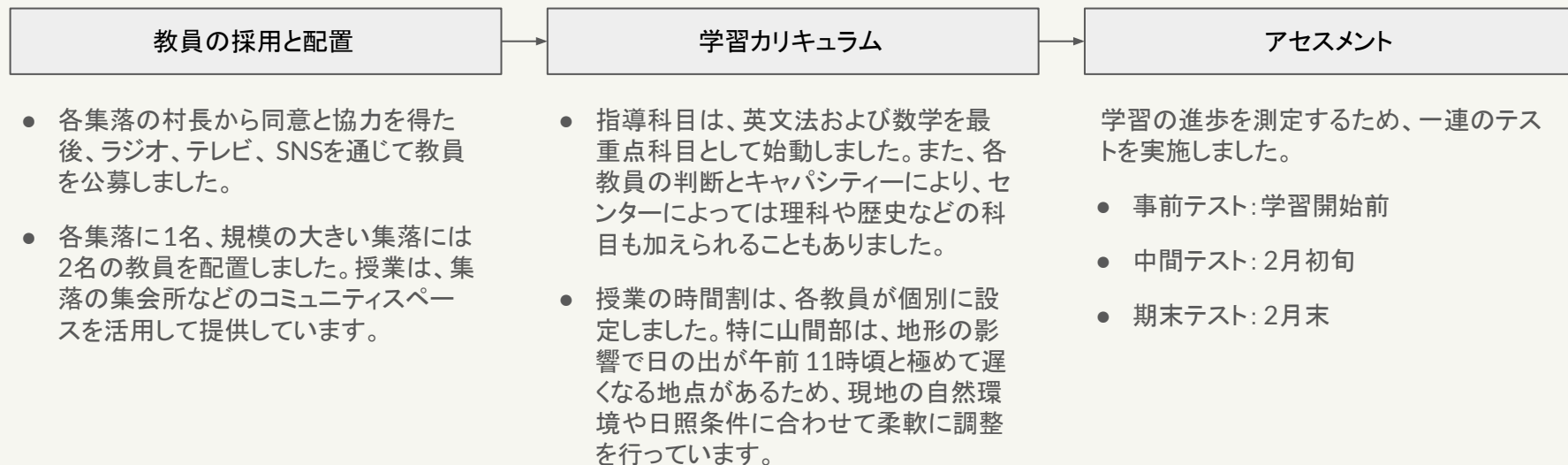


② 子どもたちへの冬季授業プロジェクト(2/8)



本プロジェクトは、NPO法人ジュレーラダックと協力し、クラウドファンディングを通じた寄付支援によって実施されました。シンゲラ峠周辺山間地域 10集落に民間教員を派遣し、冬季休暇期間中に小規模クラスを開講することで、小・中学生への学習支援を提供しました。

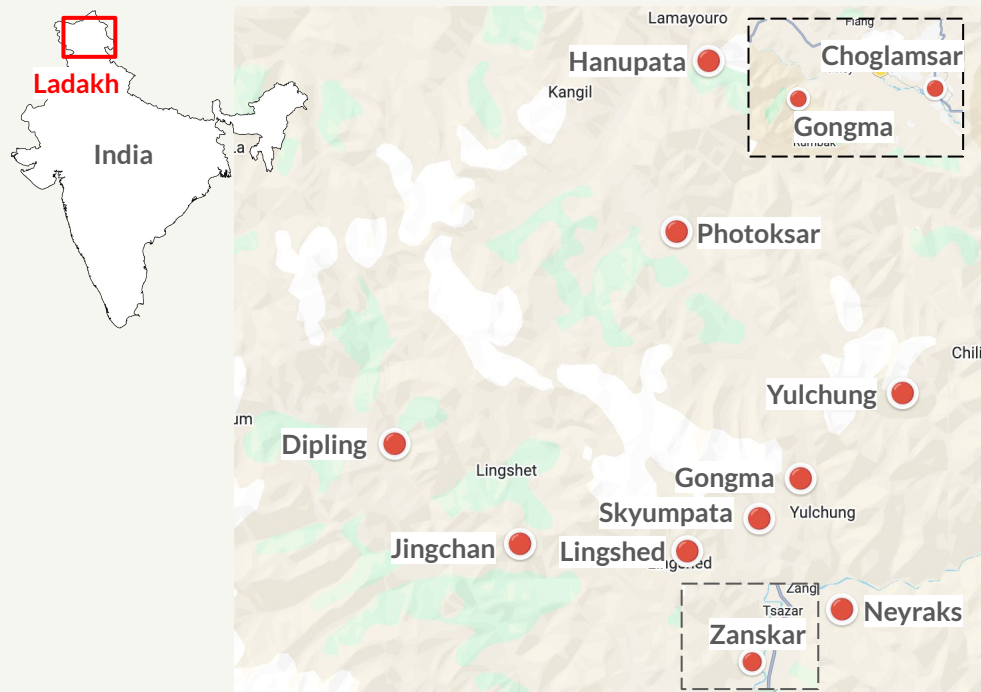
主な活動内容:



② 子どもたちへの冬季授業プロジェクト(3/8)

冬季授業では14名の教員を通じて、生徒126名に授業を届けることができました。集落ごとに規模の差があり、生徒数が最も多い Lingshedの生徒39名に対し、最小規模の Zingchanでは生徒3名でした。

集落の位置



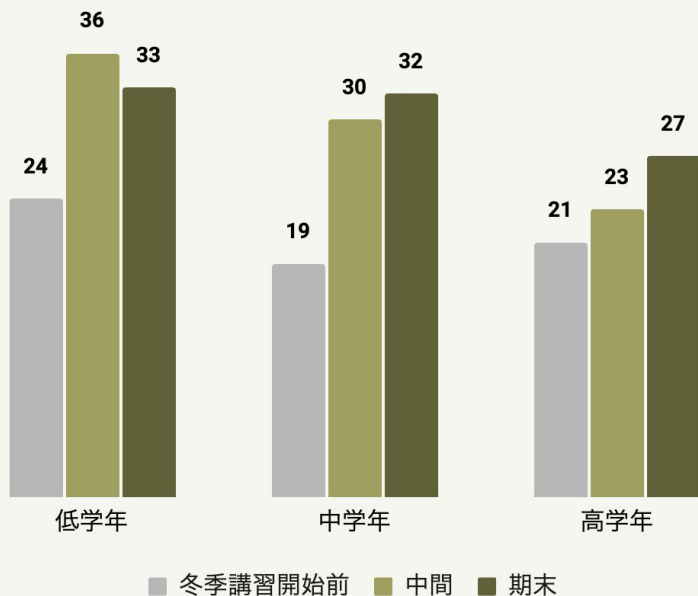
集落毎の生徒数・教員数

集落名	生徒数	教員数
Lingshed	39	2
Hostel Choglamsar	21	2
Skyumpata	14	1
Yulchung	13	1
Hanupata	10	2
Neyraks	9	1
Photoksar	9	2
Dipling	5	1
Gongma	3	1
Jingchan	3	1
合計	126	14

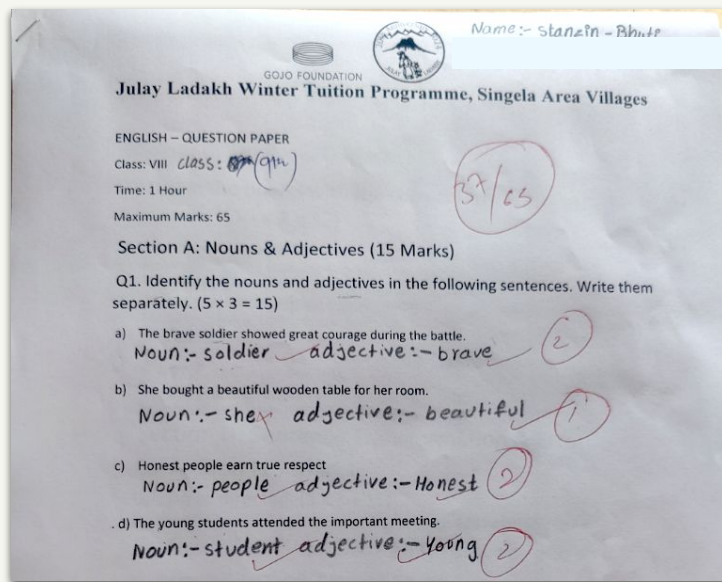
② 子どもたちへの冬季授業プロジェクト(4/8)

冬季授業を実施した結果、全学年で学力テストの平均点が向上しました。50点満点のテストにおいて冬季授業の実施前後で実施したテストの比較では、低学年で9点、中学年で13点、高学年で6点の向上が見られ、学力の改善が示されています。

テスト平均点の推移



実際のテスト(一例)



*: 低学年とは 1st-3rd grade、中学年とは 4th-6th grade、高学年とは 7th-10th gradeを指しています。

② 子どもたちへの冬季授業プロジェクト(5/8)

冬季授業の終わりに、生徒の親から先生へのメッセージが伝えられました。生徒の親からは、先生が休日も勉強を教え、ときにはダンスも教えていたことについての感謝が述べられています。



“先生方へ、そして今年は雪が少なかったおかげで、子どもたちにとっても先生方にとっても、授業の天候面では少し楽だったかもしれません。私個人は授業に伺うことができませんでしたが、うまくいっていたことを願っております。日曜日も休みなしで教えてくださったお二人の先生方には、本当に感謝しております。

時折、ダンスも教えてくださっているのを見かけましたが、良いことだと思いました。ずっと本だけで勉強しているのも、それはそれで良くないですね。

お二人の先生方に心からの感謝を申し上げるとともに、この期間中に私どもの側で何か至らぬことがありましたならば、お詫び申し上げます。保護者一同より、お二人の先生方ありがとうございます。”

ある生徒の父親

② 子どもたちへの冬季授業プロジェクト(6/8)

他の生徒の親からも先生へメッセージが伝えられました。 Photoksarに住む母親は、子供たちが楽しそうに授業に通うことができたと話しています。



“今日は冬期補習の最終日です。責任を持って生徒たちに一生懸命教えてくださったお二人の先生方に、みんなで感謝を伝えたいと思います。また、JULAY LADAKHのSkarmaさんへも、保護者全員から心の底より深い感謝を伝えたいと思います。様々なご苦勞を乗り越えてここまで来てくださり、冬期補習を手配してくださいました。

先生方はこの冬期補習の間、子どもたちがしっかり理解できるよう、隔日で小テストを実施しながら丁寧に教えてくださいました。そのことに、心から感謝申し上げます。1月10日から2月26日まで、子どもたちは一度も授業を休まなかったのですが、以前は授業についていけない、わからないと言っていた子たちも多かったです。今では子どもたちも楽しそうに授業に通っており、先生方も家族のように接して教えてくださいました。

議長や地域の皆さんを含む村全体として、Skarmaさんに感謝を伝えたいと思います。今回は村に来ていただけると期待していたのですが、今回は叶いませんでした。次の夏にはぜひ訪問していただきたいですし、これまでのご支援に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

JULAY、本当にありがとうございました！ Fotoksar女性グループの代表

② 子どもたちへの冬季授業プロジェクト(7/8)

参加した生徒から担当した先生へのメッセージもありました。冬休みの間に授業を教えてくれたことへの感謝が述べられています。



“冬休みの間、最後まで教えてくださり、ありがとうございました。授業中に先生方を怒らせてしまったことがあれば、ごめんなさい。”

ある生徒

“たくさん学ぶことができました。特に、英文法や他の教科について学びました。ありがとうございました。”

ある生徒



② 子どもたちへの冬季授業プロジェクト(8/8)



写真提供: Julay Ladakh

支援者とのコミュニケーション

資金調達とPR活動について

五常財団の活動は、主にマンスリーサポーターの皆さまからのご寄付およびクラウドファンディングによって支えられています。寄付者の拡大に向けては、財団の認知度向上に加え、当財団の理念や活動に共感し、継続的に応援して下さる方々を増やしていくことが重要であると考えています。

このため、2025年度より広報活動を強化し、各種メディアや公式 SNSを通じて、五常財団のビジョンや活動内容の発信に取り組んでいます。主な取り組みは以下のとおりです。

- ポッドキャスト「What's Next? by Gojo Foundation」
グローバルな社会課題をテーマに、五常財団創設者・慎 泰俊とプロボノメンバーによる対話形式で、週 1回配信。
- note
五常財団代表・高橋孝郎のインタビュー記事をはじめ、①プロジェクト紹介、② Podcastの更新情報、③プロボノメンバー紹介等の記事を、月1~2本程度配信)。
- ニュースレター
既存の寄付者の皆さまに向けて、公式 SNSの更新情報やクラウドファンディングを含む当財団の活動状況を、定期的にご案内。

今後も、五常財団が保有・運営する各種メディアの活用を一層強化し、認知度の向上と寄付者基盤の拡大を目指していきます。

クラウドファンディングについて



インドの秘境「ラダック」で、
子どもたちに「教育格差を越える授業」を、
女性たちに「手しごと支援」を届けたい。

Women Handcraft Project、Winter Tuition Projectの資金を集めるため、2025年6月から7月にかけてクラウドファンディングを実施しました。

日本に住む方々にとってラダックは馴染みのない地域であり、目標金額430万円の達成は簡単ではありませんでした。

しかし、以前より財団の活動を応援してくださっている寄付者に加え、インドや国際開発に関心のある方々、財団メンバーの親族知人を中心にご支援いただき、合計 162人から447万円の寄付をいただくことができました。

広報活動では既存寄付者へのメール配信のほか、ポッドキャスト、note、Xなど、当年度から運用を始めたチャネルを活用しました。本クラウドファンディングは財団の活動の意義を、これまで声を届けられなかった多くの方にまで伝えるきっかけになりました。

ポッドキャストについて



当年度より、Spotifyにてポッドキャスト番組「[What's Next? by Gojo Foundation](#)」の配信を開始しました。

この番組では「ビジネスとソーシャルのこれから」をテーマに、グローバル視点で最近気になるニュース、まだ日本語であまり出てない情報など、学びになるトピックを紹介しています。

初回放送は「最近のスタートアップにソーシャル系が増えたのはなぜ?」。以来、週1回の頻度で配信を続け、年間55本を公開しました。2026年2月末時点で986人の方に登録いただいております、着実にリスナーを広げています。

音声メディアを通じて、従来はリーチできなかった層へ認知を拡大するとともに、視聴者・寄付者との関係強化にも寄与しています。また、クラウドファンディングの際には寄付者を招いた公開収録を行うなど、オンラインにとどまらない双方向の交流の場としても機能しています。

ウェビナーについて

GOJO FOUNDATION

五常財団と考える
「誰もが自分の未来を決めること
ができる世界」のつくりかた
子どもの教育支援と女性のエンパワメント



五常財団・創設者
慎泰俊
聞き手：Natsumi（五常財団）

クラファン特別企画ウェビナー

6/14(土) 11:00-12:00

子どもの教育支援や女性のエンパワメント、その背後にある社会課題の本質について語りました。これまで財団が取り組んできた活動についての背景や現地での実践例、五常財団が今後取り組む活動としてラダックプロジェクトについても解説。予定しているクラウドファンディングの趣旨や期待する社会的インパクトについても説明しました。

GOJO FOUNDATION

「教育」の未来を考える
—途上国支援のリアルと
組織や仲間のつくり方—




五常財団・創設者
慎泰俊

NPO法人e-Education代表
三輪 開人さん

特別企画ウェビナー

7/12(土) 13:00-14:00

本ウェビナーでは、バングラデシュをはじめとする途上国で教育支援を展開するe-Education代表・三輪開人さんと、五常財団創設者・慎泰俊が対談しました。「教育格差のリアル」「途上国支援の現場で起きていること」「人が集まり、動き、社会を変えるための仕組みづくり」—そんな実践の中から見えてきた、未来をつくるための行動について対話形式で掘り下げました。

GOJO FOUNDATION

社会を変える“仕組み”を
どうつくるか
— 営利と非営利の両輪から




五常財団・創設者
慎泰俊

NPO法人ボーダレス
ファウンデーション代表理事
田口一成さん

特別企画ウェビナー

10/27(月) 18:00-19:00

NPO法人ボーダレスファウンデーション・代表理事の田口一成さんをお迎えし、五常財団の創設者である慎泰俊とともに、「営利と非営利の両輪で社会課題を解決する」ための新しい挑戦について語り合いました。ビジネスと非営利、国内と海外、個人と社会—その垣根を超えて、本質的な変化を生み出すために、今できることを対話いただきました。

私たちチームについて

私たちチームについて

五常財団のチーム体制は約40名へと拡充しました。2025年はチーム文化の醸成、役割の明確化、メンバーの主体的な貢献を促す体制強化に重点を置き、各業務領域の焦点を定め、財団ミッションへの貢献力をさらに高めた一年となりました。

引き続き、社会的インパクトと金融包摂に強い関心を持つ多様な専門人材の力を活かし、財団の活動領域を持続的に広げていくことを目指しています。



チーム別ハイライト

プロジェクトチーム

- ラダックプロジェクトの企画 / 計画から、寄付先 (Julay Ladakh) の選定、実行サポート・レビューなどの一連のプロジェクトを行いました。引続きプロジェクト完遂まできめ細かなコミュニケーションを継続していきます。
- 2026年度の新規プロジェクト企画 ~ 実行に向け、想定対象プロジェクトに関するディスカッションを始めました。

ファンドレイジングチーム

- ラダックプロジェクトに向けたクラウドファンディングを主導し、当初の目標を上回る 447万円を集めました。
- ポッドキャストを55本配信、note記事を32本公開、ウェビナーを3回開催しました。
- 次年度は団体の安定的な財源確保のため、月額寄付者の増加を目指します。また、既存の寄付者とのコミュニケーションを活発化させ、長期的な関係を築いていきます。

HRチーム

- 財団の価値観と目標への共通理解を図るため、2回のオフサイトミーティングを開催しました。
- 新規メンバーのオンボーディングについては、明確な役割分担と支援体制のもと、円滑に進めることができました。
- 今後は、新規メンバー向けの財団活動紹介資料の作成や、メンバーシップフィー導入の検討、メンバー間のコミュニケーションツールの効果的な活用に取り組んでいきます。

リーガルチーム

- 公益認定財団への移行申請に向け、法的な要件を満たすための書類整備や手続きについて、顧問弁護士と継続的な協議を行っています。
- 職務権限規程 (Table of Authorities) などのポリシーを新たに構築し、組織の透明性と意思決定の適正化を図り、ガバナンスのさらなる強化に努めています。

オフサイトミーティングの開催

2025年は8月と11月の2回、オフサイトミーティングを実施しました(東京に来ることができないメンバーはオンラインで参加)。

ミーティングでは各チームからの活動報告や今後のアクションの確認のほか、財団の中長期的なゴールや在るべき姿についてもディスカッションを行いました。

五常財団は全員プロボノで活動しています。メンバーが変わっても活動の方向性を見失わないために、五常財団としてのビジョンやミッションを踏まえながら、中長期的な方向性について合意形成を図ることはとても重要です。

多様なバックグラウンドを持つ人材が集まり、それぞれの知見や経験を持ち寄って議論を重ねることで、より多角的で実効性のある意思決定につながります。また、メンバー同士の相互理解や信頼関係の構築が促進され、組織としての一体感も高まります。

今後も定期的にオフサイトミーティングを開催し、財団の活動の方向性の共有と組織文化の醸成に取り組んでいきます。



2025年8月のオフサイトの様子

寄付のお願い

五常財団は誰もが自分の未来を決めることができる世界というビジョンの ために努力しています。
皆様からの寄付を心よりお願い申し上げます。

もし寛大にも当財団に寄付をご検討いただける場合は、[ご寄付受付フォーム](#)からお問い合わせください。
フォームが送信された後、当方から銀行口座番号等の詳細をご連絡いたします。

クレジットカードを利用して、毎月の定額寄付、または今回のみの寄付をお申し込み頂けます。
[クレジットカード決済用ページ](#)より金額を選択のうえ、ご登録ください。

ただし、当財団は一般財団法人であり個人からの寄付は所得税の控除対象とはなりません。
法人の場合は一定額まで税金控除が認められますので、ご注意ください。

貸借対照表

2025年12月31日時点 / 単位: 円

科 目	金 額	科 目	金 額
【資産の部】		【負債の部】	
流動資産	1,050,454	流動負債	1,050,454
現金及び預金	1,014,430	未払金	979,433
前払費用	35,024	未払法人税等	70,000
未収入金	1,000	預り金	1,021
固定資産	3,532,327	固定負債	-
特定資産	3,532,327		
現金及び預金	3,322,327		
未収入金	210,000		
		負債合計	1,050,454
		【正味財産の部】	
		指定正味財産	3,532,327
		一般正味財産	-
		正味財産の部合計	3,532,327
資産合計	4,582,781	負債・正味財産合計	4,582,781

正味財産増減 計算書

自: 2025年 1月 1日

至: 2025年12月31日

/ 単位: 円

	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定財産運用益			
特定財産受取利息	0	5,687	5,687
受取寄付金	6,000	6,000	12,000
指定正味財産からの振替額	6,143,788	331,009	6,474,797
経常収益計	6,149,788	342,696	6,492,484
(2) 経常費用			
給料手当	585,600	146,400	732,000
法定福利費	82,175	20,543	102,718
外注費	300,000	0	300,000
支払報酬料	0	11,000	11,000
賃借料	62,400	15,600	78,000
通信費	559,692	111,414	671,106
支払手数料	56,195	0	56,195
消耗品費	42,027	0	42,027
広告宣伝費	545,771	0	545,771
寄付金	3,915,928	0	3,915,928

正味財産増減 計算書

自: 2025年 1月 1日

至: 2025年12月31日

/単位:円

2	経常外増減の部			
	(1)経常外収益	0	0	0
	(2)経常外費用	0	0	0
	当期経常外増減額	0	0	0
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	0	37,739	37,739
	他会計振替額	0	0	0
	税引前当期一般正味財産増減額	0	37,739	37,739
	法人税・住民税及び事業税	0	70,870	70,870
	当期一般正味財産増減額	0	-33,131	-33,131
	一般正味財産期首残高	0	33,131	33,131
	一般正味財産期末残高	0	0	0
II	指定正味財産増減の部			
	受取寄付金	5,597,879	639,500	6,237,379
	一般正味財産への振替額	-6,143,788	-331,009	-6,474,797
	当期指定正味財産増減額	-545,909	308,491	-237,418
	指定正味財産期首残高	1,974,609	1,795,136	3,769,745
	指定正味財産期末残高	1,428,700	2,103,627	3,532,327
III	正味財産期末残高	1,428,700	2,103,627	3,532,327

組織体制

評議員



ブリッジ・モハン *

Ananya Finance for Inclusive Growth Pvt. Ltd.の元会長、元インド開発銀行のエグゼクティブ・ディレクター。「インドのマイクロファイナンスの父」とよばれる。



堅田 航平

五常・アンド・カンパニーのChief Financial Officer (CFO)。モルガン・スタンレー証券等を経て現職。大学在学中にバングラデシュのNGOにおけるリサーチに従事。



ハビエル・マーティン

Digital Frontier IncのChief Operating Officer (COO)。2003年から2005年までUn Sól Mon Foundationの国際マイクロファイナンス・プログラムのコーディネーターを務めた。

* 2026年中に退任。2025年末時点では評議員

理事



高橋 孝郎

五常・アンド・カンパニーChief People and Inclusion Officer。以前は、マッキンゼーの経営コンサルタント、ブータン首相フェロー、世界銀行グループFCで勤務。



今井 章子

昭和女子大学教授。以前は公益財団法人東京財団の常務理事として財団の運営に従事。



新貝 仁那

株式会社Linc'well・執行役員CFO。以前は米系投資銀行二社にて主にM&Aアドバイザーや資金調達実務に従事。前職、五常・アンド・カンパニー。

監事



細川 兼嗣

MUFG Innovation Partnersジェネラルカウンセル。Social Venture Partners International理事、UWCISAK監事などを務める。

アドバイザー



スチュアート・ラザフォード

世界的なマイクロファイナンスの研究者・実務家。バングラデシュにてSafeSaveを創業、後にBRACへ売却。フィナンシャル・ダイアリーズ・プロジェクトを世界に先駆けて始め、業界に大きな影響を与えた。著書多数。五常・アンド・カンパニー取締役。

事務局



慎 泰俊

五常・アンド・カンパニー共同創業者兼代表執行役。認定NPO法人Living in Peace共同創業者。日本児童相談業務評価機関共同創業者

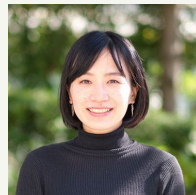


米光 匡

2025年4月よりデロイト・トーマツで財務アドバイザーとして勤務。途上国のボトムラインからの発展に関心があり、五常財団の取り組みに共感。趣味は紅茶を飲むことやピアノを弾くこと。

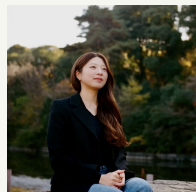
榮原 豪

デロイトトーマツコンサルティング合同会社のビジネスコンサルティングチーム所属。大学院在学中には、五常・アンド・カンパニーの経営企画チームでインターンとして勤務。



菅沼 小春

公認会計士・税理士。五常・アンド・カンパニー経営管理チームと兼職。以前は認定NPO法人Living in PeaceにてマイクロファイナンスPJに従事。



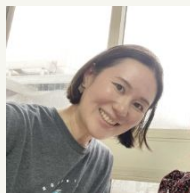
坂本 月緒セシルユエシュー

2024年4月よりデロイトトーマツにてM&Aアドバイザー職に従事。エネルギー、化学、資源、鉱物業界の案件に関与

事務局

竹内 瑞貴

ライター・エディター。大学院在学中の2020年より活動を開始。一貫して社会課題解決に向けた情報発信を行う。



稲村 明子

総合商社/通信会社における新規事業開発、広報・マーケティング業務経験を活かし、複数のNPOにプロボノとして参画中。

舟越 和子

資産運用会社勤務。以前はICAで開発援助に携わり、ネパール駐在時に金融包摂事業に取り組む。

ラニア・マナイラ

五常・アンド・カンパニー経営企画チームと兼職。

金岡 由里子

東京生まれ・東京育ち。大学では政治経済学を専攻し、中国に1年間留学。現在は日本の総合商社に勤務し、コーポレート部門にてアジア地域の不動産事業に関する会計、税務、投資判断を担当。

山本 航平

京都フェージュニアリング公共政策部長。マスク在籍時は、国内外の政策渉外に加え、水不足地域への淡水供給プロジェクトに従事。エネルギーや金融など、インフラへのアクセスをすべての人に開くことを自身のミッションとする。



事務局



大石 将人

元々JAXAで火星探査の研究に従事。バックエンドエンジニアを経て、現在はhikali, inc.代表。ブロックチェーン技術を活用し、金融包摂の実現に取り組んでいる。



佐々木 実

新規事業開発や資金調達、事業再生支援やM&A支援等に従事。2023年よりSalzburg GlobalのFellow、2025年より国際文化会館会員としても活動。



鈴木 奈津美

一般社団母親アップデート代表理事と兼職。ビジネスとソーシャルの間の複業。女性のエンパワーメント、コミュニティ、組織開発に従事。

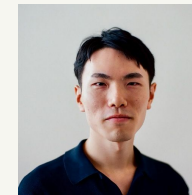


大津 太郎

大手邦銀にて貿易金融に従事した後、南アフリカ・ヨハネスブルグへ赴任。現在は社会課題解決型ファイナンスの推進に携わる。地方創生のプロボノ経験も持ち、博多祇園山笠に毎年参加。

中西 良艶

CVC Capital Partners投資チームと兼職。以前はPwC/KPMGにて主にM&Aアドバイザー関連業務に従事。UNDPと連携して社会起業家向けのメンタリングプログラムに関与。



辻 竜太郎

会計税理士事務所にて財務アドバイザー、株価評価などに従事。プロボノとしてNPO法人の会計支援などを行う。

事務局



真鍋 卓也

スタートアップにてHR/コーポレート業務に従事。JICA、ラグビーワールドカップ2019 組織委員会、コンサルファーム等を経て現職。NPO法人greenbird理事。



高本 あすみ

商社での財務、JICA海外協力隊(マラウイ)、通信会社での経営企画等、企業財務と国際開発の両分野で実務に従事。

胡田 聡美

大学卒業後、外資系コンサルの東京オフィスに入社。その後シンガポール拠点にてインフラE業務に携わり、現在は日本国内にて日本株投資の実務に従事。趣味は世界旅行。



塩崎 諒平

在モザンビーク日本国大使館にて人道・開発支援プロジェクトの管理に従事。政府機関や国連諸機関との連携を経験し、現在は国際移住機関(OM)に勤務。



中村 俊也

エルサレムで半年間開発支援に携わり、その後渋谷のスタートアップにてウェブプラットフォームの事業運営に従事。現在はロンドンにて開発経済学の修士課程に在籍。



町田 大樹

日本と東南アジアを拠点とするスタートアップにて複数のサービス開発及び海外拠点の立ち上げに従事。3年のカンボジア・ベトナム駐在を経て、現在は同社の東京拠点に勤務。

事務局

遠藤 柁士

大手邦銀にてTMTセクター中心に日系大企業を担当。幼少期の米国・シンガポール生活や学生時代のボランティアを経て、金融による機会創出に関心を持つ。現在は法人向け融資や財務支援に従事。

風能 彩花

人事領域にてピープルアナリティクスや人事企画に従事。KPI設計やデータ整備、プロジェクト管理や合意形成のための資料作成など多岐にわたる実務を担う。

作成者

慎 泰俊 / 高橋 孝郎 / 大津太郎 / 坂本 月緒セシルユエシュー / 佐々木 実 / 町田 大樹 / 稲村 明子 / 辻 竜太郎 / 鈴木 奈津美 / 竹内 瑞貴 / ラニア マナイラ / 塩崎 諒平 / 菅沼 小春 / 舟越 和子

連絡先

info@gojofoundation.org

当報告書へのフィードバックや質問がある際は、お気軽にご連絡ください。

所在地: 東京都渋谷区

www.gojofoundation.org

© Images: Gojo Foundation

© Icons: “groceries” icon by Adeel rehman, from thenounproject.com CC BY 3.0 / “voucher” icon by Nugraha Wira Menggala, from thenounproject.com CC BY 3.0 / “speed” icon by Alzam, from thenounproject.com CC BY 3.0 / “diary” icon by Prashanth Rapolu, from thenounproject.com CC BY 3.0

© Gojo Foundation, 2025. All rights reserved.